

令和8年度丹後織物人材育成研修実施要領

- 1 目的 丹後地域の基幹産業である織物製造や関連工程に関わる人材に対して研修を行い、産地の生産体制を維持することを目的とする。
- 2 内容 織物に関する基礎知識、製造技術や技能、新商品開発の手法等を学ぶ17コースを実施する。各コースの概要や実施予定時期は以下の表のとおりとする。
- 3 主催 京都府織物・機械金属振興センター
- 4 対象者 丹後地域等の織物製造や関連工程の事業者、従事またはこれから従事しようとする者とする。
- 5 申込等 各コースの申込方法及び定員等は、開講約1カ月前に当センターのホームページ等に掲載する募集案内に示す。

番号	コース名	講師	回数 (予定)	概要	実施時期 (予定)
1	織物基礎【対面方式】	小松副主査	3時間×5回	織物の製造に必要な知識について、実際に顕微鏡、試験機、撚糸機、織機等を利用して学びます。	5～6月
2	織物基礎【オンデマンド方式】	小松副主査	1時間×5回	織物の製造に必要な知識について、オンデマンド方式で好きなカリキュラムを選んで学びます。	10月
3	製織準備【たて継ぎ(手つなぎ)】	新池主任研究員	3時間×2回	手つなぎによる、たて継ぎの作業を学びます。	6月
4	製織準備【たて継ぎ(機械つなぎ)】	外部講師、 荻野専門幹	6時間×1回	たて継ぎ機(榊橋詰研究所製)を利用した、たて継ぎの作業を学びます。	10月
5	製織【基礎】	新池主任研究員、 荻野専門幹	3時間×最大24回	製織に従事され始めた方を対象にマンツーマンで、糸の扱い方、織機の操作、織り合わせ等を学びます。	5～9月
6	製織【応用】	外部講師	3時間×8回	織機やジャカードの日頃の調整、作業環境の整備等について、質疑応答形式で学びます。	10～11月
7	織物組織と紋織技術	外部講師、 小松副主査	3時間×18回	織物組織と機拵えの関係を明確にし、紋データ作成の技術を学びます。	7～11月
8	織物設計のための基礎知識	小松副主査	3時間×6回	糸の太さ、撚り数や撚り構成、糸密度など織物設計に必要な知識を学び、自社の織物を分解します。	11～12月
9	織機調整【シャトル基礎】	外部講師、 吉岡副主査	3時間×10回	シャトル織機の調整方法を学びます。	8～10月
10	織機調整【レピア基礎】	外部講師	3時間×3回	レピア織機の調整方法を学びます。	11月
11	織機調整【分解・組立】	外部講師	3時間×10回	両側4丁シャトル織機(津田駒工業(株)製)を分解・組立して、織機調整の実技を学びます。	10～12月
12	織機調整【織機調整研究会】	外部講師	3時間×10回	織機調整の技術を次代に継承するため、研究会を構成し、会員相互に意見を出し合って学びます。	7～11月
13	新商品開発【産地ネットワーク構築】	外部講師	2時間×6回	他の織物事業者やインタウンデザイナーと連携し、プロダクトの開発から販路開拓までを学ぶワークショップです。	5～11月
14	新商品開発【縫製】	外部講師	3時間×15回	ファッション製品を試作縫製する知識や手法を学びます。	5～10月
15	新商品開発【ものづくり&機器活用】	新池主任研究員、 荻野専門幹	調整のうえ決定	センターが保有する機器を利用して、新商品を開発する手法を学びます。	4～12月
16	現場実践研修	新池主任研究員、 荻野専門幹	調整のうえ決定	講師が企業の現場に赴き、研修で学んだ内容を企業の現場で実践する手法を学びます。	4～12月
17	セミナー【先進事業の見学】	外部講師	1回	商品開発、販路開拓、生産基盤の維持・発展に向けて、先進的に取り組んでいる企業等を見学します。	9月